

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	11
2. 地域との支えあい	2
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	3
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670200585
法人名	オフィス藤田有限会社
事業所名	グループホーム 燦々
訪問調査日	平成 19 年 11 月 6 日
評価確定日	平成 20 年 1 月 24 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

【取り組みの事実】

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

【取り組みを期待したい項目】

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

【取り組みを期待したい内容】

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 11月6日

[評価実施概要]

事業所番号	4670200585
法人名	オフィス藤田有限会社
事業所名	グループホーム燦々
所在地	鹿児島県薩摩川内市永利町970 (電 話) 0996-20-3515

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島県鹿児島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成19年11月6日	評価確定日	平成20年1月24日

[情報提供票より] (19年9月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15 年 1 月 7 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 4 人, 非常勤	人, 常勤換算 4 人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 200 円	昼食 300 円	
	夕食 400 円	おやつ 100 円	
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 82.1 歳	最低 71 歳	最高 93 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ひがしクリニック・Kメンタルクリニック・若松歯科医院・
---------	-----------------------------

[外部評価で確認されたこの事業所の特徴]

ホームは薩摩川内市のやや郊外の小高い丘の上に位置し、緑いっぱい
の木々や畑が広がり、澄みきった空気が美味しい地にある。基本理念や運営
方針に基づき「自尊心の尊重」「役割をもった生活」「自発的行為の重視」
等、パーソンセンタードケアを重視し実践している。又職員は良く入所者に
対し「言動を否定しない。命令しない。指示しない。」等々11項目もの対応
姿勢をよく弁え守り日々受容的共感的態度に徹している。又認知症介護
実践研修や管理者研修等も受講し看護大学等の実習を受けており認知
症の介護について理論的に理解し実践できる職員がいる。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価では利用者の権利義務について文書で明確にする事と利湯者の怪我等の緊急時の手当てた感染症に対する予防や取り決めがある事が主な課題となっている。現在この課題に取り組む重要事項説明書の中にも表現しかつ入居時に口頭で分かりやすく説明している。緊急時の手当てについては職員が一定の手当てができるよう定期的に研修をする計画があり、感染予防委員会を中心に感染予防について話し合いがなされている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者職員共に自己評価に取り組みサービスの質の向上に努めている。昨年の要改善点を今職員一同一丸となって取り組みつつある。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 市の担当者には運営推進会議に参加してもらい又、拒食や自傷行為のあるような対応困難な事例等についても相談し解決にむけて協議している。又、グループホーム連絡協議会発足時は市にも案内し連携をよろしくし、問題解決をはかっていくための関係づくりが積極的になされている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 1ヶ月に1回は燦々便りやホームでの暮らしぶり、写真、職員の配置異動金銭出納簿のコピー等を送付している。管理者や職員は自筆の手紙を添え個々の家族への細やかな配慮がなされている。又、家族の面会時はよく声かけし、要望等を聞いている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域住民の一員として自治会にも加入し、地域の季節ごとの行事や夏祭り・保育園の運動会にも参加し、資源回収等にも協力して地域の人々との関わりを積極的にもっている。代表者は地域の認知症を考える会の代表としても活躍し年に1回は勉強会を開き、地域老人会や看護学校の講師も務め地域の人々と支えあうような関係ができてい

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者のそれまでの生活習慣や価値観を重要視し、個別介護を行うと共に自尊心を傷つけないように心しながら、日常性を大切にするよう理念を作っている。又、「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」をよく理解し「地域の人達との交流をもつ」ことも加え、地域密着型サービスの役割を考えた理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「先輩として敬意を表す」「自尊心を傷つけ無い」「出来ることを増やしていく」という理念の内容を事ある毎にケアの方法と結び付けている。職員は常に誰のための何のための介護かを自問自答し、日常業務についている。理念をミーティングやカンファレンス等で話題にし、事業所内のよく目に付くところに貼り、共有し意識付けがなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の一員として自治会にも参加し、地域の季節ごとの行事や保育園の運動会等にも参加し、資源回収等にも協力し地域の人々との関わりを積極的に行っている。又、代表者は地域の認知症を考える会の代表としても活躍し1ヶ月に1回は勉強会を開き地域の老人会や看護学校の講師も勤め、地域の人々と支えあう関係ができています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員共々評価のねらいやその意義、活用方法についてよく理解している。評価は管理者・全職員で取り組みサービスの質の確保に生かしていこうとする姿勢が伺える。前回評価を受け、ホーム便り「燦々」を発行し、家族は勿論のこと地域住民にもホームの様子をお知らせし具体的に改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には行政の職員・自治会の代表・民生委員・家族代表者等、幅広い立場の人に参加してもらっている。家族会の報告や2ヶ月間の入居者の様子・外部評価の結果を公表し行事参加や地域での役割について話し合い、地域の理解や支援を得るべく取り組んでいる。老人会主催のゲートボール参加や夏祭りへの誘いもあり、太鼓や踊りを披露し地域と一体化している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者には運営推進会議にも参加してもらい、又、拒食や自傷行為のあるような対応困難な事例等について相談し協議している。又、連絡協議会発足時には市にも案内し、連携をとり問題解決を図っていくための関係づくりが積極的になされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	1ヶ月に1回は燦々便りやホームでの暮らしぶり・写真・職員の配置異動のお知らせ・金銭出納帳のコピー等を送付している。管理者・職員は自筆の手紙も添え個々の家族への細やかな配慮もなされている。又、家族の面会時によく声かけし、要望を聴いている。今後は年4回燦々便りを発行し、積極的に情報を届ける予定である。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回家族会をもち、アンケートを配布し、意見要望を頂くよう機会をつくっている。その中には、日々のケアに対して感謝の気持ちをよせて下さる家族もあり職員の張りのにもなっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動は会社運営上必要な場合のみとし、利用者ダメージを防ぐよう取り組んでいる。通常は8人体制で勤務し、異動時は2週間のオリエンテーション期間を設けて新人・新任職員の教育を]実施し、利用者への対応のあり方を周知している。その内容としては運営理念に始まり、介護の知識・方法・環境整備・調理全般・感染予防・個別介護計画等々、学習してもらい職員も早く馴染み利用者へのダメージを防ぐ配慮がなされている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	いままでは2ヶ月に1回職員研修を行っていたが、その後は月1回の外部研修に参加している。現場で働きながら直接的指導をしており、日々の体験が学びとなっている。	○	新人・新任職員へのオリエンテーションも充実した指導内容となっている。今後は職員の要望や意見も取り入れ、OJTも含め年間計画を立て実施し、職員育成されることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本年9月川薩支部認知症グループホーム連絡会が発足し、同業者との交流連携を深め、事例検討会や研修会を実施する予定となっている。又、管理者が認知症介護リーダーけんしゅうも受講し、県内のグループホームと連携を取り、情報交換しており、今後交換研修も計画している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前には本人、家族共々ホームに来てもらいお部屋や間取り・他の利用者の様子や職員とのやり取り等見学してもらい納得した上で入所できるよう配慮されている。同会社の通所介護・宅老所の利用者が時折訪れ場の雰囲気にも慣れ入所になることもあり、地域密着型サービスの特徴が活かされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の生活歴を基に一人一人の過去の趣味や特技を知り、盛り付けや味見・おはぎ作りなど一緒に調理し味わい楽しんでいる。時には職員に対し手を合わせて有難うと言われる場面もあり、職員は先輩から人間として育てられる気持ちにしている。意思疎通が出来ない時は入居者に笑顔をかえしてもらう事もあり、本人の思いを共感理解している。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の「出来る事・出来ない事」の生活機能を丸ごととらえるアセスメントシートに記録をとり日々の関わりの中で「何をしたいか」「どう過ごしたいか」等も会話や表情からとらえている。職員は日頃から入居者の思いや希望・意向の把握に努め認識をもって業務についている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人家族から「出来る事」(生活機能)を聞きアセスメントし、個別の介護計画が作成されている。例えば帰宅願望の強い入居者には、会話の中で本人に決定してもらうと気持ちが落ち着く等、本人本位の計画となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	概ね6ヶ月から1年で受け持ち介護員中心として個別の状況や家族の要望を参考に見直している。なお本人の状態や家族の意向に応じて臨機応変に計画の見直しもなされている。	○	安定している入居者の場合も月に1回程度は本人や家族の要望を聞き計画の見直しをして、変化に対する予防的対応が望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の指定を受けており、必要に応じホームにて点滴注射を行って利威容者・家族の要望に応じて生活の継続を支援している。なお往診にも来てもらい、入信・入院回避も出来ている。又、病院への送迎もしている。台風襲来・大雨の災害予報時には緊急的宿泊も受け入れえたり、宅老所から臨時的に受け入れたりと臨機応変に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時はこれまでの受療状況を把握しかかりつけ医や希望の病院に必要時に受診できるよう支援している。循環器・消化器の専門医との連携もあり、往診も受けている。なお家族同伴の場合は医師より受診結果が送付され職員も情報を職員も情報を本人・家族共々共有できている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向をふまえ、重度化に伴う意思確認書を作成し、ホーム内で対応可能なケアについて説明している。家族や主治医とも話す場を設け、看護内容について説明し関係者全体の方針の統一を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は個人情報保護法を良く理解し自尊心を傷つけるような言葉かけをしないよう、常々心掛けている。研修会では日常の介護行為を通してプライバシーの保護への意識付けがなされている。利用者の入浴は一人一人とし、決して否定的な応答をしない等尊厳が守られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が主体となって生活が出来るよう日々の中で職員は工夫し夜寝付けない人とは話をし昼寝する人にはそれを支援し食事時間・面会時間等特に決めていない。散歩など個々の体調に配慮しながら柔軟に対応している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の力量や体調を配慮しながら、職員と共に野菜切り・味見・盛り付け・後片付け等をしている。又、同じ食卓と一緒に食事を取り会話しながら楽しい時間となっている。煮しめ・おはぎ・カレーライスが皆さんに人気がありよく食卓にあがり一日の胎児名時間となっている。今後は外食も時々計画される予定である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日ごとに入浴者を決めているが、その日の状態や意向により時間をずらしたりして対応している。今まで午前中の中入浴であったが、勤務体制を変更し15時ごろに入浴できるようにしている。又、開所当初より屋内に足湯が出来るよう設計し、利用者には喜ばれている。なお入浴時の羞恥心やプライバシーにも配慮し、原則一人ずつの入浴となっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	「出来ること」「できないこと」の生活歴を参考にして個々の役割や楽しみごとを見出し、調理・洗濯ものたたみ・洗濯干し・チラシを利用してゴミ袋折り等できるよう支援している。又、夏は朝8時の散歩を日課とし、楽しみの一つとなっている。4月の花見に始まり昔の映画を見る会を実施したり、毎月1回程度は楽しい行事を計画し気晴らしや喜びの支援がなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気分転換やストレス発散のためにも買い物や散歩に誘い、戸外に出かけるよう支援している。季節によっては屋外で食事をしたりお月見をしたりと短時間でも庭に出る機会をつくり日々の生活の中で外出支援をしている。今後は車で皆さんと一緒に出かける計画をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上施錠するが昼間は玄関・窓共に鍵はしていない。職員は外出傾向にある利用者をよく分かっており、外出時には一緒に出て歩き安全面にも配慮している。近所の方々や警察とも連携し時には住民から通報してもらった場面もある。職員は鍵をかけない暮らしの大切さをよく意識している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所全体で災害対策委員会を作り、自然災害への対策等討議している。年1回は避難訓練・通報・消火訓練を実施し、月に1回は通報訓練を実施している。又、地域住民や九州電力とも非常時は連携できるよう体制が取れている。なお、台風襲来時には2日前より、飲料水・缶詰め等を用意し災害時に備えている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日概ね一人一人が1600kcalは摂取できるように献立している。飲み水は1000っちゃ取れるよう配慮し、3回の食事・お茶時には適宜勧めている。毎回食事量を記録し血液検査の結果も参考にして、不足栄養を補うよう西、栄養に対しては常に意識して関わっている。		
sessyu					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの中心に台所が設計されており、その周りに廊下・利用者の個室・畳の間や共用小野広間があり、利用者も職員も安心して過ごせるような場づくりがなされている。壁には外出時の写真を貼ったり季節ごとの飾り付けをして生活感・季節感を感じてもらおう場作りをしている。証明も眩しくないよう配慮しホーム内は昔懐かしい童謡や流行歌が流れ、心地よい空気が漂っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	箆筒・机・ベット・布団利威容者によっては仏壇も持ち込まれその人らしく暮せるよう居心地の良い居室造りがなされている。又、目覚まし時計やお茶碗も本人の物を使い不安やダメージを少なくするよう配慮されている。		